

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報きくち9月～11月で各部門の最優秀作文を紹介します。

【小学生の部】最優秀作文

怒りの貯金を減らそう

隈府小学校6年 末田風和さん



毎日生活していると腹が立つことがあります。それがたくさんたまるとう火山が爆発するように噴火し、その噴火が犯罪や非行につながるのかもしれない。毎日の小さな怒りは、マグマのようにフツフツと私の心の中にもたまりまます。怒りの貯金みたいなものでしょうか。暮らしの中で、腹が立たない人、腹を立てたことがない人はいないと思います。みんな腹が立つことはあるけれど、噴火するかしないか何が違うのでしょうか。私の家にはアンガーマネジメントのカードがあります。怒りを上手にコントロールすることを目的に作られたカードで、学校でよくある出来事がカードで表されています。カードを手にとると、とても共感できる60の出来事が書いてあります。

例えば、①「一緒に帰る約束をしていた友達は何も言わず別の友達と帰っていった」②「好きな給食のおかずの量が他の子より少ない」③「クラスの子がこつちを見てヒソヒソ話をしていた」カードの中に入っていたこれらは全て私が学校の中で経験してとても腹が立った出来事でした。各カードの裏には、自分の思い込

みや考え方を変えるヒントも書いてあります。それぞれ次のように書かれています。

①「今日は別の友達と帰るね、ごめんねと言われていたら？」これは納得できます。確かにそう言っただけで済んだらいいな。②「後ろの人の分がほとんど残っていなかったら？」なるほど、残量が少ない場合はしょうがないと納得できます。おかわりできそうな量が残っているなら多めに入れて自分から頼むこともできます。③「その中にとても仲のいい子が混じっていたら？」私はその場合は、もう友達をやめようと思ってしまう。しかし、その前に友達本人に何を話していたのか確認することもできるなと思いました。

このように、相手がしたことや自分がどう解釈し行動するか、これが怒りの貯金を減らす工夫かもしれません。

また、私自身の日々の生活から、自分の怒りや悩みを誰かに打ち明けたり聞いてもらったりすることも、怒りの貯金を減らす上で大事だと思っています。なぜなら、私も家族に話を聞いてもらっているからです。

怒りの感情は悪ではありません。自分一人よりも、身近な人の力を借りて怒り貯金を減らすことが、効率が良い素早く減らす方法かもしれません。噴火する前に、小さな暮らしの中の怒りの貯金を減らすことで将来的に大きな犯罪や非行が減っていくと思います。

私は最高学年として、学校や学級が少しでも明るくなるように、週一回取り組んでいるあいさつ運動をもっと明るく元気に笑顔で実施し、一人一人の心の怒り貯金のマグマが少しでも落ち着くようにしたいと思います。

犯罪や非行に走る子どもたちは、私たちの身近にいる普通の子ともたちです。怒り貯金が少なかったら起きない犯罪もたくさんあるはずですが、悪いことをしようと思っただけで生まれてくる人は一人もいません。怒りが噴火しないよう、小さな怒りのマグマを火消しできる場面は毎日の生活の中できつとあるはずですよ。

アンガーマネジメントだけでなく、身近な人たちに怒りの感情を伝え、それを正しく受け止めてもらうことが大事だと考えます。



竜門ダムの工業用水利用について

半導体関連企業の県内進出に伴い、工業用水需要が高まっていることから、熊本県企業局が竜門ダムに所有する未利用水を送水する計画が決まりました。

菊池台地用水土地改良区 ☎0968(25)1500
農林整備課 ☎0968(25)7222

承認までの経緯

半導体関連工場向けに工業用水を供給するため、農業用管路（パイプライン）を利用して熊本県企業局が所有する竜門ダムの未利用水を送ることが決まりました。

TSMC（台湾積体電路製造）の県内進出で工業用水需要が高まることから、パイプラインを使ってダムの未利用水を供給します。地下水への負担を減らす取り組みの一つです。

ダムから半導体関連工場が集積するセミコンテックパークまでは直線距離で約16km。工業用水のパイプラインを新設するには多くの時間と費用が発生することから、県企業局と管理委託を受けている菊池台地用水土地改良区が協議を続けてきました。

今年3月、菊池台地用水土地改良区は総代会でパイプライン利用を承認しました。工業用水の水利権の範囲での供給や、使用が多くなれば工業用水を止めることなどが条件です。県はパイプラインの維持管理費を土地改良区側に支払い、かんがい期でも農業用水と工業用水の確保ができるよう、調整池を設ける予定です。

農家の皆さんからは、水を多く使う夏場に農業用水を送れなくなるとの懸念が出ていましたが、農業用水の送水を最優先に工業用水の供給に取り組んでいきます。

工業用水送水の概要（左図参照）

- 1 農業用水の水利権を分けるものではなく、県企業局が持っている工業用水の水利権の範囲で送水。
- 2 長洲町・荒尾市・福岡県大牟田市で使用している工業用水は竜門ダムに持つ水利権の約半分の利用となっている。
- 3 和木町の白石堰で使用されていない工業用水の余剰量を利用。
- 4 工業用水の余剰分を地下水保全の観点から、TSMC関連企業へ送水。
- 5 送水にあたり、菊池台地用水土地改良区が管理する国営パイプラインの一部を使用。

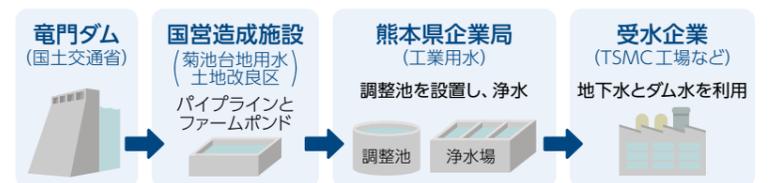


農業用水が最優先

農家の皆さんが先祖から受け継いできた農地を守り、農業用水を使用することで、地域の地下水涵養、大雨時の防災など、農業が地域へ与える好影響は計り知れません。

今回の送水は国策として半導体企業を後押しする中で重要な案件ですが、このパイプラインは農業用水のための施設です。農業用水が最優先であることに変わりはありません。

工業用水送水のイメージと農業用水を守るための主な条件



- 主な条件
- 常に農業用水が最優先である。
 - 農業用水の利用が多くなった場合は工業用水を停止する。
 - 県企業局が竜門ダムに持っている工業用水の水利権の範囲内で送水する。